

PUPS 通信 第5号

PUPS 通信 第5号をお届けします。

東京は、2週間前の週末は雪、先週末はとても暖か、そしてこの3連休はさらに暖かい日が続きました。体調を崩さずにお過ごしでしょうか。

PUPS ドリル、順調に進んでいますか？ 今週からはいわゆる理系科目が始まります。ひょっとしたら苦手になっている人もいかもしれませんが、問題を見ればお分かりのとおり、基本的な問題から始まっています。気楽な気持ちで取り組んでください。問題を解き、忘れていたところがあったら、解説を読んで復習しましょう。それでも分かりにくいところがあったら、遠慮せず質問してください。

また、前号では、先取り講座の内容をお伝えしました。興味深い講座がいくつもあったのではないかと思います。来週から動画を公開しますので、もう少しだけお待ちください。次号では、動画公開に合わせて、動画の視聴方法についても改めてご案内します。今号は、皆さんと勉強を始めることを楽しみにしている教員からのメッセージをお届けします。

◆◆教員からのメッセージ◆◆

◆ 齊藤 文子（総合文化学科国際文化領域スペイン語専攻 教授）

清泉女子大学によろこそ。総合文化学部・国際文化領域・スペイン語専攻の齊藤文子です。物語や映画のフィクションの世界に迷い込むのが好きで、スペイン語圏の文学の研究をしています。新入生のみなさんとは、「総合文化スタディーズ」という科目でお会いすることになります。

大学生活ってどういうものかと不安を募らせている方がいらっしゃると思いますが、本学はみなさんがキャンパスライフをスムーズに始められるように、いろいろな企画を立てて準備しています。大学はみなさんに、これまで知らなかった新しい世界を提供してくれるところです。未知の世界への扉をたたいて、大きな一歩を踏み出しましょう。お目にかかることを、心より楽しみにしています。

◆ 福留 真紀（総合文化学科文化史領域 教授）

新入生のみなさん。よろこそ清泉女子大学へ。文化史領域の福留真紀です。日本近世史を専門にしています。

これから始まる大学での学びは、みなさんの興味の対象に、じっくりと向かい合い、問

いを立て、それを自らの力で解き明かす、学問や研究の世界です。積極的に授業に取り組み、自らさまざまな本を読み、文章を紡ぐのはもちろんですが、歴史の学びは、教室の中や机の上だけではありません。博物館や美術館で、史料や作品を見てみましょう。能や歌舞伎など、古典芸能の世界に触れてみましょう。そして、その歴史の登場人物が生きた地に自ら足を運んでみましょう。

みなさんと学問の楽しさを一緒に体験することを楽しみにしています。

◆ 西村 美保（地球市民学科 教授）

清泉女子大学へのご入学おめでとうございます。地球市民学部、日本語教員課程の西村美保です。

清泉は、一人ひとりの興味や考えが尊重され、のびのびと過ごせる温かな場所です。私自身、学生時代は熱気球サークルや海外派遣など、学外での活動に積極的に取り組みました。皆さんもこれからの4年間で、勉強はもちろん、自分が心から「好き」だと思えること、そして生涯の宝物となるような仲間をぜひ見つけてください。

私の専門は日本語教育ですが、学びの形は人それぞれです。正解のない問いに向き合い、自分なりの生き方を模索する皆さんを全力で応援します。この緑豊かなキャンパスで、皆さんの個性が花開くことを楽しみにしています。

◆ 大井 洋子（基幹教育機構 教授）

4月から、いよいよ新しい生活が始まりますね。少しワクワクして、少しドキドキしている人もいるかもしれません。

ここでひとつ、みなさんにお願いがあります。「大学でこそ、これをやりたい！」という目標を、いま一つだけ決めてみてください。大きな目標じゃなくて大丈夫です。

その一つが、語学への挑戦です。大学は、新しい言語に出会える場所でもあります。清泉女子大学では、英語はもちろん、スペイン語・フランス語・ドイツ語・中国語・朝鮮／韓国語・イタリア語・ギリシア語・ラテン語・ロシア語など、さまざまな言語を学べます。入学までの間に、「どの言語に挑戦してみたいかな？」と想像してみるのも楽しい準備の一つです。

また、英語も「やり直し」ではなく、新しくスタートするチャンスです。大学の英語は、これまでの学習の“応用”が中心になります。だからこそ、入学までの期間に基礎を少し復習しておくとうれしいです。

もし「苦手」があるなら、こんな工夫もおすすめです。

- ・聞き取りが苦手：一度見た英語映画を、次は字幕なしで挑戦してみる
- ・読むのが苦手：あらすじを知っている物語を、英語で読んでみる
- ・語彙が不安：入学後のクラス分けに使うプレイスメントテスト（TOEIC）に向けて、

単語集で少しずつ準備する

大切なのは、完璧にやることではなく、「少しでも前に進んだ」と思える経験を積むことです。毎日5分でも、週に2回でも、それは立派な準備になります。

みなさんが自分の目標を胸に、笑顔で清泉女子大学に来てくれることを心から楽しみにしています。4月にお会いしましょう。

◆ 吉岡 昌紀（地球市民学科 教授）

長い春休み、いかがお過ごしでしょうか。

高校までの学校と大学とは、同じ学校だから共通するところもいろいろありますが、違うところもたくさんあります。中でも、大学は自由な場だということが、いちばん大きな違いだと思います。

なぜ大学は自由な学校なのか？

一つの理由は、皆さんが成人だからです。これから先、皆さんは自分でやることを自分で決めなければならない。勉強もそうです。自分で目的を決めて学んでいく必要があります。大学にもいろいろな決まりごとはありますが、それらは、皆さんを縛るためというよりも、皆さんの自由な学びを支えるためにあります。

大学が自由であるもう一つの理由は、大学での専門的な勉強は、学校や教室の中に収まりきれないからです。大学は、教室で勉強を教えるところであると同時に、自分で学ぶ学生に、資料や情報や手段や人脈などを提供する場です。

自由な大学で皆さんにお目にかかることを、楽しみにしています。